

第1回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議 会議概要（無記名版）

日 時：平成30年5月29日（火） 10時00分～12時00分

場 所：伊予市役所 4階会議室

出席者：アドバイザー会議委員6名、事務局4名、委託業者2名

配布資料：資料① 第1回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議議事次第

資料② 伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議委員名簿

資料③ 伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議設置要綱

資料④ 第1回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議資料

資料⑤ 平成29年度伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議
課題まとめ

資料⑥ 人材育成講座について(案)

1. 開会

- ・ 委員長挨拶

2. 委員紹介

- ・ 委員の自己紹介
- ・ 事務局の自己紹介

3. 議題

○説明、報告事項

（1）進捗状況の共有

- ・ 文化交流センターのハードとソフトの進行状況のご説明。（事務局）

ハード：2019年8月開館を予定に建設中

ソフト：6月、「伊予市文化交流センター」という名前で使用に関する条例を
上程予定。6月議会で議決後、愛称募集をさらに進める予定。

（2）前年度アドバイザー会議の活動報告 資料④

全5回実施。

1回目：全体スケジュール確認

2回目、3回目：事業計画に関する検討

3回目、4回目：設備品に関する検討

4回目、5回目：市民参画範囲に関する検討

(3) 平成 29 年度伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議での意見と課題まとめ 資料⑤

① 市民参画範囲に関する検討について

- 「伊予市らしさ」の位置づけについて。課題を市の理念と関連付けて解決するための方針を固めていく必要がある。(事務局)
- 子どもたちがいかに利用しやすい施設にするか。子どものときにいかにこの施設で思い出をつくった経験をしてもらうかが重要で、市民参画等の行事等があれば、参加しやすいのではないかという意見があった。また、保護者を巻き込んだ事業も必要である。(事務局)
- この図書館・文化ホールを使った文化的な活動を立ち上げていただくことによって、それに興味がある子どもたちが、市内各所から集まって活動ができる可能性は十分にある。中心部にできるけれども、委員からの意見にもあるように、双海、中山といった広域に捉えて、進めていきたい。(事務局)
- 市民大学のような、自分たちが学んだことを実際に一般の方々に教えるような、市民自身も講師となって行われるような事業があってもよいと思っている。これは、子どもから大人に伝える、教えるということもあっていいと思っている。主体的に取り組む方々を、今後、各地域それぞれに発掘していくことが大変大事だと感じる。やらされているのではなく、自らやっているという思いになっていく環境づくりが要るのではないか。(事務局)
- そういう意見の中の対応策、課題としては、学校等と連携を絶やさず、通年事業の中組み込むなどして定期化していくが挙げられる。予算や内容について、学校側との要望と擦り合わせる必要がある。開館年度を見越して、学校側と協議を行う。(事務局)
- また意見として記憶に強く残っているのが、子どもたちがやりたいということと、こちらがやっていきたい、進めたいと思うことは相違があるというところで、子どもたちに寄り添った取り組みを進めていきたいと考えている。(事務局)
- 市民参画がまだまだ広がりがないので、それをどう広げていくか。その組織づくりについてもまだ検討課題であるし、また多くの方を巻き込む工夫ということで、人材育成講座などのイベントを実施し、多くの人に参加していただく工夫が必要であると考えている。(事務局)

② 使用規則に関して

- カフェ部分に関しての運用ルールなどをきちんと整理していく。利用者の混乱を招くような自体にならないように、理解が得られるようなルール作りを丁寧に行っていく。カフェの運用についても、ただ単に飲み物を提供する所でなく、

そこで読み聞かせといった事業をしたり、また地域の方々にその場を提供したり、チャレンジショップみたいなものもやっていくのもいいのではないかとということで、検討を進めている。(事務局)

- 議論になったのが、「施設内のどこで飲食ができるか」である。当初は、市民の皆さん方から、武雄市や岡山県高梁市などの図書館、大手コーヒーショップが併設になっているような図書館がいいという意見がすごく強く出た経緯がある。その中でどの範囲で飲食できるのかという検討を実は結構時間をかけてやってきており、場所明確に定めて、この施設でも飲食ができるようにしようとなったのが背景としてある。(委員長)

③ 事業計画について

- 続いて事業計画、伊予市の魅力、伊予市らしさに関して、文化財に加え、地域行事など地域の中での価値や、社会的な価値を伝えることが必要ではないか。また伊予市の魅力を学ぶとともに、参画の機会、出番や居場所を共創する取り組みが必要との意見があった。地域のつながりを作っていくこと、それが伊予市の魅力にもつながっていくのではないかとご意見頂いた。(事務局)
- 伊予市の魅力を伝える手法の一つで、伊予市のクイズづくりを事務局としてご提案していただいたけれども、やり方や、実施時期をどのように設定するかを引き続き検討している。また学校、商店街、各地域に協力要請をしなければならないが、それについても内容、時期を早急に検討していく。(事務局)
- 施設の特性を活かして、朗読や読み聞かせに映像や音楽を組み合わせたものもいいのではないかとのご意見を頂いた。(事務局)
- アーカイブ活動も重点的にやっていく。文化財やいろいろな地域行事の記録をきちんとして、それを継続するそういった施設が新しい施設に反映されることが必要である。(事務局)
- またスタッフサポートというところで、幾つかのパターンに対し、館で受け皿も作って、きちんと手当等ができる体制があることが重要なことではないかという意見も頂いた。(事務局)
- 施設の特性を活かした事業、例えば図書館とホールが連携したもの、地域交流と図書館が連携した事業が出来ればよいと考える。(委員1)

④ 事業評価について

- 来館者に対し、アンケートを取るなど評価を行っていく。(事務局)
- また、お試し期間中で公募するイベントについては、事後報告をしていただく。報告書を提出して終わりではなく、グループヒアリングを行うなど、今後の館の運営

にも繋がるような意見を吸い上げていきたい。(事務局)

- 複合施設ができ、その周辺がどのように変わったかというのも大切だ。その建物から発展して飲食店が繁盛した、といったにぎわい創出効果についても評価の視点として持っておいたほうが良いと意見を頂いた。(事務局)

⑤ 人材育成について

- ・ 担い手としての人材を育成するものと、そのような活動を応援する人材を育てていくものの2種類がある。単に座学ではなく、現場で勉強する機会も作っていく。(事務局)
- 講座については、開館前は実際の施設がないため、施設について知ってもらう意味合いも含めて、講義等の講座などを中心に行う。開館後は具体的な現場で学び、自分たちの活動をスキルアップする場にもしていく。また活動の長期的な発展を目指した応用講座を設けるなど、目的を見据えた講座内容を設定していきたいと考えている。(事務局)

○施設概要について

- ・ 施設概要説明。(委員長・事務局)
- ・ この施設の常駐者は誰か。ボランティアスタッフも活かしながら運営されていくとは思いますが、どういう立場の人が常駐するか。(委員2)
- 文化ホールのスタッフも図書館のスタッフも専門性の高い業種になる。開館して数年は市直営で運営と考えているが、技術スタッフなどは委託しようと思っている。図書館は、図書館司書を中心に現図書館のように運営をしていければよいと考えている。(事務局)
- ・ ホールの利用料金はいくらか。学校の事業で使用するとなった場合は無料になるのか。(委員3)
- 実施内容や実施主体にもよる。(事務局)
- 全国を見ると、21世紀以降の新しい施設は、ほとんどの施設が減免していないという動きになっている。受益者負担という考えに基づいている。今後、直営から指定管理になると仮定して、指定管理者の大切な収入源である利用料金収入を減免等の利用で圧迫しすぎることとなれば、誰も手を挙げてくれなくなるだろう。(委員長)
- ホールを平日に全日利用するとしたら2万1380円である。これに、冷暖房費加算があるが、この料金は近隣等の比較で算出したものである。(事務局)
- 説明を伺って納得した。今の案でも安いと思う。以前は、教育的配慮で減免があったが、今はそんな時代ではないので、今後のことを見据えると、減免については見直す次期なのかもしれない。(委員4)
- ・ 次の議題へ移る。(委員長)

○事業計画について

- ・ 事務局より管理運営実施計画の振り返りの説明。(事務局) 資料④

- ・ 開館記念事業の実施時期と大きな方向性の説明。(事務局) 資料④

→ 2019年8月に開館して、その後、現図書館を解体して、駐車場にする。駐車場ができるまでの間、2019年8月から3月まで駐車場のない期間がある。8月から12月までに関しては、市民文化祭等々、市主催、または共催の実施をメインで行っていくが、駐車場の関係もあるので、大規模なものは控え、4月以降の実施を考えている。2019年12月から2020年3月については、市民の方や学校、企業等の市民の皆さまにお試し事業としていろいろと使っていただけたらと思う。文化ホールを舞台として、いろいろと皆さんに企画をしていただきたい。本格的な開館に向けて、管理運営が着実に行えるための習熟期間としたいと思う。企画書を提出頂き、市との共催事業というようなかたちを取りたい。2020年4月からは、どんどんとお試し事業で培ったノウハウを活かして、グランドオープンという形で自主事業を打っていきたいと考えている。(事務局)

- ・ 開館記念事業の検討スケジュール案について説明。(事務局) 資料④

- ・ 今までの説明で、何かご質問あるか。(委員長)

- ・ 双海中学校は来年10周年を迎えて、ちょうどここで文化フェスタ的なことができたらいいかないと考えている。10月か11月の頭ぐらいまでに実施できればと思うが、お試し事業の期間に当てはまらない。調整することは可能だろうか。(委員2)

→ 学校行事ということで、市の事業としてとらえさせていただければ、そのお試し期間でなくても、市の主催事業というかたちで実施は可能だろう。その辺は、また学校教育課とも協議して頂きたい。ただ駐車場がないということを念頭においていただきたい。(事務局)

- ・ お試し事業は、補助金のようなものが出るのか。(委員3)。

→ 施設の使用料が全額免除となる。それはホール等の施設使用料、付帯設備使用料、空調費が全額減免で、その分が補助されているとご理解頂きたい。(事務局)

- ・ 次の議題に移る。(委員長)

○広報宣伝計画について

- ・ 広報宣伝について説明。(事務局) 資料④

→ 一番の課題は市民に「どんなのができる」、「どういう風なことになっている」ということが全然周知できていないことである。その様なこともあり、条例制定についても本来であれば建物ができてから条例などもやるべきではないかという内部の声もあったが、できるだけ早く周知をしたいということで、パブリックコメントさせていただいた。管理運営実施計画の振り返りになるが、開館前の現在の状況はプレイベントとしてアウトリーチを行い、小中学校を中心に、そういったPR事業を展開している。条

例が議決されれば、速やかに愛称募集も始めていく。愛称募集で皆さんに交流文化センターについて知ってもらう、考えてもらう機会となると考えているまたパンフレットやポスター、ホームページでの周知もしていきたいと思う。(事務局)

- ・ 広報宣伝について事例の説明。(事務局) 資料④
- ・ ここまでで質問あるか。(委員長)。
- ・ 伊予農業高校の生徒は、交流文化センターができることは皆知っている。我々が小さい頃もそうだったが、市内に新施設が出来たときは、市や教育委員会がバスを出してくれて、地元の小学校、中学校などが順番に見学に行かせてもらった。これは大事なことだと思う。愛称募集や見学会など、実際に自分たちが関わったとなると、口コミで広まっていくと思う。(委員4)
- ・ 愛称募集以外に、シンボルマークとか、ロゴは募集しないのか。(委員長)
- ・ 現在は愛称募集だけを予定している。シンボルマーク、ロゴタイプについては検討する。愛称募集についてはできるだけ、子どもを中心として皆さんに関わっていただきたいと考えている。募集後、5案程度に絞り、小中学生に投票していただく。(事務局)
- ・ オリンピックのキャラクターのときも、子どもたちはそうとう喜んだ。うちのクラスの候補選ばれたなどとても興奮していた。(委員3)

○人材育成講座について

- ・ 人材育成講座について説明。(事務局) 資料⑥
- 市民の皆さんの出番作りをするような形の講座にしたいと思っている。まず講座の種類については企画講座を実施していく。また今後は、ボランティア講座、子ども対象の講座、他館の見学、研修というような種類について検討して頂きたいと思う。人を幸せにできる、また自分が幸せだと感じると、そういった取り組みが出来たら良いかなと考えている。前段で申し上げた、やらされている感というのを払拭して、自分から参加してみたいという様な形の活動としたい。単発ではなく継続的なものとして考えていきたい。通年事業に向けた取組みとして、施設の魅力の発信、また事業実施に対するワクワク感の醸成、啓発育成という様な事で進めていきたいと考える。(事務局)
- 企画講座に関しては、実際にイベントをするにはどんなことが必要なのか、どんなことが起きるのかっていうことを一緒に考えようという講座である。ボランティア講座に関しては、少し先走りすると、ホールにしても図書館にしてもこの後に専門ボランティアという方が出てくることがあって、舞台技術のお手伝いとか、フロントスタッフなどのことを指す。図書館での受付をやってもらおうとか、司書の資格を持ってらっしゃる方は司書のお伝いをしてもらおうとか。これらの講座は、一回きり行って人数が集まったから終わりではなくて、その人のクオリティを高めたり、新たな人を取り込んでいったりするために継続していかななくてはならない。その他、ご意見なければ、

次の議題に移る。(委員長)

○現場見学会について

- ・ 工事現場の見学会について実施したいと考えている。ハードと調整して、市民を公募して皆さんに見てもらおう機会を作る。(事務局)

・

○その他

- ・ 人材育成講座の話があったが、ボランティア組織なみたいなものが、いずれは必要だと思うのだが、先ほど説明されていた出番作り(ボランティア)講座はというのがシリーズ化して、1人の人が何回も受けるようなイメージなのか、それともたくさんの人にとにかく来てもらって、こんな仕事あるよみたいなイメージなのかどちらであるか。また、最終的には、専門ボランティア組織を市が主導して作っていくのかご教示頂きたい。(委員5)
- ボランティア講座については、まずは、1回で広く皆さんに知ってもらおうという会にしていきたいと考えている。1回目の呼びかけで反応によって2回3回というのもあり得るのかなって思うが、まずは1回と考えている。その組織化については、市民の皆さんに主導していただきたいと考えている。(事務局)
- 要は、講座を開いた先は、市民の自主性に任せるのか、市や館側が仕掛けるのかという問題である。組織化とか集団化っていうのがある程度必要なのではないかと委員5はお考えであろう。理想はボランティアに集まった人たちが自主的にグループを作って活動していくことなのだが、その組織は開かれているという形になれば良いのが、なかなかそううまくはいかない。一方で、ある程度は市のコントロールが必要なのではないかという意見もある。(委員長)
- 県と市にはボランティアセンターがあるので、そういったところにも声掛けして行こうかと思う。ボランティア組織として出来上がっている団体があるので、そういうところにお声掛けもしながら、そこからの発展も考えたい。市としては、新しく組織を作って進行していく方針では現在ないため、既存団体などに相談させて頂くなど、市民参加の糸口を見つけていきたいと考えている。(事務局)
- 市民組織についての問題は、今後も引き続き検討していきたいと思う。(委員長)

4. 閉会

- ・ 時間となったため、閉会とする。(委員長)

以上